



だより

— つながれ ひろがれ —

第163号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば
TEL : 090-8116-4633
E-mail : info@kanpachiba.com
<https://kanpachiba.com/>

特定非営利活動法人環境パートナーシップちば第8回通常総会

持続可能な社会づくりに向けて多様な繋がり

代表理事 桑波田 和子

会員の皆様には、日頃ご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。おかげさまで、ご来賓として（一財）千葉県環境財団小笠原様のご臨席のもと、5月25日に第8回通常総会を開催することができました。

当会は、「持続可能な社会を目指し！」ネットワークの構築、人材育成、情報の発信を軸とした中間支援団体として活動を展開しています。

2024年度の事業では、「エコメッセちば2024」の事務局機能、千葉県主催の「若者が主役の環境保全応援事業」受託事業、ユースボランティア支援活動、SDGs学生フォーラム後方支援、千葉市公民館講座の実施、里山ものづくり親子体験の場、市民大学のサポート、印旛沼をきれいにする活動

などを実施しました。

2025年度は、SDGsちば拠点(南・北・中央)の交流促進、「若者が主役の環境保全応援事業」受託事業、「エコメッセちば2025」、公民館講座などネットワークや人材育成への取り組みなどを展開していきたいと思っております。また、会員の在住地域が県内に広いため、会員間の交流がなかなかできていませんでした。まず、お互いの活動など知る機会を作り、そこから連携・活動へとつながり広がることも期待したいと思っております。

現在の世界情勢は気になることが多いですが、多様な人が住める地球環境を作る人として歩んでいきましょう。皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

ご挨拶

(一財)千葉県環境財団 小笠原 千幸

第8回目となる総会の開催、心よりお祝い申し上げます。

「環境パートナーシップちば」の皆様におかれましては創立当初から、地域の環境保全活動や循環型社会づくり、地球温暖化対策、SDGs・ESD関係の事業、また、エコメッセちばの実行委員会事務局として、長年にわたり地域との連携を深め広範囲に活動されていることに対しまして、あらためて敬意を表する次第でございます。

当財団は、県及び関係市町村の環境行政の補完的役割を担うことを目的として設立された団体でございます。昭和49年の設立以来、環境調査・分析事業、環境アセスメント事業、環境測定機器保守管理事業、環境活動支援事業等、地域の環境保

全を目指し、多くの活動を展開してまいりました。このたび50年という節目を迎えることができましたのも、ひとえに皆さまのご支援とご協力があったことと、深く感謝申し上げます。

今後も、気候変動や生物多様性の課題に対しても、地域の力を結集し、持続可能な社会の実現に向けて邁進してまいります。環境パートナーシップちばの皆さまとも連携を深め、地域の環境課題に取り組むため、積極的な活動を展開していきたいと考えております。皆さまのご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

結びに、「環境パートナーシップちば」のますますのご発展と会員の皆様のご健勝を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

年度初頭の挨拶

千葉県環境生活部 循環型社会推進課長 石田 涼

「環境パートナーシップちば」の皆様におかれましては、日頃、地域の環境保全活動の推進や多様な主体との連携など、本県の環境行政の推進に多方面から御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。また、今年度30回目の節目を迎えるエコメッセちばの実行委員会事務局として、長年多大なる御尽力をいただいております、改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、県では「千葉県環境学習等行動計画」に基づき、私たち一人ひとりが環境問題を「自分ごと」として捉え、自らのライフスタイルや事業活動を環境に配慮した形へ転換するなど、「行動する人づくり」を進めています。気候変動、生物多様性の保全、海洋プラスチックごみや食品ロスなど、現在の環境問題は、社会のあらゆる主体が相互に連携・協働して取り組む必要があり、「環境パートナーシップちば」の皆様の取組は大変重要だと考

えています。

また、県では、環境保全活動に取り組む若手人材の発掘・育成を図ることを目的として、令和5年度から「若者が主役の環境保全活動応援事業」を実施しています。事業開始以来、「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」の開催、スタディツアーや受賞団体の活動報告会等、若者への伴走支援を行っていただきました。本事業も3年目を迎え、環境問題に真摯に向き合う若者の姿や、環境保全に関する熱意にあふれる取組が県内でより一層広がっていくのではないかと期待しています。今年度においても引き続き、よろしくお願いいたします。

結びに、「環境パートナーシップちば」のますますの御発展と、皆様の御健勝を祈念いたしまして、年度初頭の挨拶とさせていただきます。

出展団体募集！！「エコメッセちば2025」

エコメッセちば実行委員会

「持続可能な社会の実現」を目指し「つながれ ひろがれ エコメッセ」をもとに、「身近な暮らしからもう一步！」をテーマにして、市民団体、企業、大学、行政など社会の様々な主体が参加・出展し、環境について子どもから大人まで楽しく学べる環境活動見本市「エコメッセちば2025」を開催します。

今年度は「エコメッセ30周年感謝祭」をテーマに、SDGs 実現に向けて県内で実践されている具体的な活動を紹介する場を提供したいと考えています。今年度も団体紹介動画をホームページ上で公開するオンライン出展と、幕張メッセ国際会議場を会場とする会場出展の、2つの形態で参加可能です。オンライン開催は2025年10月18日（土）10:00から2026年第31回開催前日まで、エコメッセちばホームページ内で団体紹介動画を公開させていただきます。

会場開催は2025年10月19日（日）10:00～16:00に幕張メッセ国際会議場を会場として、1区画（2m×2m）単位で150区画を募集します。ま

た昨年に続いてSDGs マルシェへの出展団体の募集も行います。

いずれの参加形態についても、出展料などの詳細やお申し込みは、エコメッセちばのHP (<https://www.ecomesse.com/>)をご覧ください。

【重要日程】

- （4月9日）第1回実行委員会総会開催
- 「エコメッセちば2025」出展募集案内開始
- 7月22日 会場出展募集締め切り
- 8月22日 オンライン出展募集締め切り
- 9月13日 第2回実行委員会開催
- 出展者説明会及び交流会開催
- 10月18日～「エコメッセちば2025」開催（オンライン）
- 10月19日「エコメッセちば2025」開催（会場）



特定非営利活動法人環境パートナーシップちば 第8回通常総会と交流会 報告

2025年5月25日(日)、千葉市生涯学習センター研修室にて、第8回通常総会が開催されました。会場参加とオンライン参加のハイブリット形式で、総会議決権をもつ正会員数38名に対し出席者数、書面表決、委任状の合計が27名と過半数を超えたので、定款26条により無事総会が成立となりました。

桑波田代表理事より、日頃より皆さまからいただいているご理解ご協力に対する感謝と、多様な人が住める地球環境を目指して一緒に活動をしていきたいとの挨拶がありました。

次に、ご来賓の一般財団法人千葉県環境財団業務部営業担当部長 小笠原千幸様よりオンラインでご挨拶をいただきました。千葉県環境財団様は今年で創立50周年を迎えられたということで、今後は気候変動や生物多様性の課題についても、地域と共に積極的な活動を展開されるとのことでした。

さて総会の議案ですが、第1号議案から第4号議案まで、2024年度の事業報告と決算報告並びに監査報告、2025年度の事業計画(案)と予算(案)、また第5号議案の役員を選出(役員全員が任期満了の為)は、すべて承認をいただき、無事総会は終了しました。

会場には、初めてお会いする方もおられ、リアル会場の良さも再認識しました。

第二部 交流会「これから」を(楽しく)考える

総会の後、交流会が開かれました。ファシリテーターは環パの理事でもあり神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部教授の石井雅章氏に引き受けていただきました。

まず、現在の環パについて「まわすことで手いっぱい」の感があるとの指摘がありました。環パが掲げている「中間支援」も、「中間とは?」「支援とは?」と改めて問われると曖昧な感じがします。

そもそも環パの事業には3つの柱があり(総会資料参照)、多様な場面で多様な内容を展開しています。事務局を含め「仕事」を分担しています。基本的には無償ボランティアです。それをこなすことが結構なハードワークになっている感があります。また、携わる会員も皆多忙で、年齢が上がり体力も落ちてきてしんどくなってきていることは事実です。高齢化、会員の減少、長年活動している団体の問題の例にもれず、です。

環パが任意団体として発足したのが1997年なので、もうすぐ30年です。当初から官民の環境保全活動や団体同士のパートナーシップの旗振り役を旗印にしてきました。時代や関わる人の変遷はありましたが、その真髄は変わっていません。今回の交流会はいったん足を止め整理をする良い機会となりました。

参加者の発言から、控えめではありつつ熱い思いをもって活動をされていること、地域でつながることの大切さを感じる、つながることでパワーアップできる、別の団体のアイデアなど“いいとこどり”ができる等々、ヒントがたくさん見えてきました。

受託した事業や様々な活動を通して、環パは様々なノウハウを蓄積し成長してきました。色々な顔を持つ環パなので、会員間でも環パに対するイメージは様々です。なかなかまとまりませんが、やはり会員の“多様性”、関わり方の“多様性”が環パの宝です。しかし、それは環パが今までも大切にやってきたことです。それを今、姿見で己の体の大きさを確認する時なのでしょう。ネット情報とは違い、ローカルで温度感をもつ情報は生身の人間のコミュニケーションの中で浮上してきます。「いっしょにお茶を飲みながら話しましょう」の原点にもどってきたような気がしました。

(文責：中村 明子)



←総会

交流会→



「若者が主役の環境保全活動応援事業」の応援団体の登録をお願いします

千葉県では「千葉県環境学習等行動計画」において、ちばの未来を創る「行動する人づくり」を目標に掲げ、本県の環境活動をリードする若手人材の発掘・育成を図ることを目的に、令和5年度から「若者が主役の環境保全活動応援事業」を実施しています。

具体的には、主に20代までの若者が主体となって構成する団体やグループを対象に、環境課題の解決に向けたアイデアコンテストを実施するもので、優秀なアイデアには最大50万円の賞金を活動資金として交付するなどの支援を行っていきます。環境パートナーシップちばでは、昨年度に引き続きこの事業の運営を受託し、県とともに若者の挑戦を応援していきます。

コンテストは今年度もエコメッセちば2025の会場（10月19日）で行います。現在、コンテスト参加募集開始に向けて、コンテストに挑戦する若者に協力をしていただく企業や団体の登録を募集しております。

登録された皆さまの活動内容や課題等に関する情

報をとりまとめ、コンテストに挑戦する若者団体へ提供することとしております。登録は、ちば電子申請サービス（千葉県）を利用いたします。記載のQRコードからご入力をお願いします。



なお、昨年度は11のアイデア応募があり、その中から、

第1位：食品加工廃棄物と鉄くずで作物パワー活性化（千葉県立大網高等学校農芸化学プロジェクトチーム）

第2位：着なくなった洋服に、第二の人生を（Carutena）

第3位：里山が抱える二つの課題～都市住民による持続可能な里山保全活動の提案～（東邦大学ネイチャープロジェクト）

が選ばれ、着実に取り組みを進めています。

皆様の御理解と応援団体への御登録をお願いいたします。（文責：桑波田 和子）

ユース活動の場発見！2025年がスタート

ユース活動の場発見！プロジェクトは、地域の活動を応援するため、地域団体の夏休みの活動に若者にボランティアとして参加してもらい、地域団体が元気になり、若者の社会参画が進むことを目標に2018年から始めました。

毎年地域の団体にユース活動の場の受け入れ団体になっていただくことから始まり、集まったユースボランティアのガイダンスシートを、県内高校（現在は、科学部・生物部にターゲットを絞って）にチラシを配布して高校生を募集します。

参加したユースから活動報告が送られ、編集して各団体のユースボランティア報告書となります。報告を届けたユースには、環境パートナーシップちば発行のボランティア証明を各自に郵送いたします。

2025年のユース活動応援団体にはボランティア受け入れ後に活動紹介を作成していただき、今年

で30周年となる10月20日の「エコメッセちば2025」会場で、ユースの報告と共にパネル展示報告をして、来場者の皆さんに見ていただきます。地域団体へのお願いは「ユース活動の場発見！でユースボランティアの応援をして、“エコメッセちば30周年”に参加しませんか？」という長いタイトルになりました。

皆様の団体でも是非応募をお願いいたします。

問い合わせ先：NPO 環境パートナーシップちば
e-mail: info@kanpachiba.com

応募：環パちばHPより詳細と応募シートをダウンロードください。（文責：横山 清美）



SDGs・ESD 交流会のご報告

趣旨:皆様の情報交換が地域拠点展開の新たなヒントになりますように(ネットワークの基になる人と人とのつながりのきっかけを支援する)

期日:3月22日(土)

場所:蘇我コミュニティセンター

人数:20人 参加費:500円・(交通費半額支援)
年度末でご多忙と思いますが、近況報告などお互いに持ち寄りましょう。

として、“SDGs・ESD 交流会”というやや大げさな?タイトルでお呼びかけた交流会の4時間はあっという間に過ぎました。

【プログラム】

11:00~12:00 各自が近況報告として嬉しかったこと、困ったこと、団体からの要望等を話されました。

12:00~12:45 ランチ(カレーライス(運営委員が腕を振るい差し入れのおはぎや果物等)等を楽しみました。

12:45~14:00 拠点として一緒にやれることなどを出し合いました。

直接お会いして、お一人お一人の人となりから見

えてきた各自の活動が理解できたことは大きな収穫でした。参加者の一人から、「自分の地域ではこれが消費できなくなったからよろしく」として袋一杯に持ち込まれたあられをほおぼりながら、高齢者ばかりになった、地域の課題を話し合ったり、共に調理し共に美味しく頂くことから、コミュニケーション効果の高まるのが共感できた楽しい集いでした。

コロナ感染の影響以来、ネットでの情報交換の便利さに甘んじてきていて、直接体験の重要性やその効果をともしれば後回しにしてしまいがちだったことも再確認しました。

地域活動拠点の要になれる皆様とESD・SDGs的な付加価値をつけていくために、お互いに時々の共通認識や視点の違いを見つけることから、リーダシップのマインドセットできるよい機会になるのではないかと感じました。(文責:重 政子)



境川かわまちづくり登録記念イベント シンポジウム

～境川は浦安の背骨! 知れば広がる、みんなのかわまちづくり～

浦安市の境川かわまちづくり計画は2024年8月8日に国土交通省の支援制度に登録され、2025年4月1日からスタートしました(だより161号をご覧ください)。3月29・30日には登録記念イベントが行われ、私は30日のシンポジウムに参加してきました。

まず基調説明として、浦安市道路整備課広瀬さんから「境川かわまちづくりとは?」と、浦安市郷土博物館島村館長から「境川の歴史」のお話がありました。

基調講演は2題で、法政大学名誉教授陣内秀信先生の「境川から考える水辺を活かしたまちづくり」では日本や外国の水辺を活かしたまちづくりのいろいろが紹介されました。また、ONE RIVERプロジェクトマネージャー岩ヶ谷充さんは、「川であそび、川にまなび、川と暮らす～ひとつの川を舞台にした、つながりの物語～」と題して、愛知県

岡崎市の乙川で行った水辺を使ったまちづくりの経験について話してくださいました。

トークセッションでは陣内先生をモデレーターとして6名のパネリストが登壇し、それぞれの活動紹介、前日の境川イベントの報告、境川への想いなどが話されました。その様子がグラレコ(グラフィック・レコーディング)で表現されましたので、浦安市のご厚意により以下に紹介します。

(文責:小倉 久子)



開催報告 大和田機場 春の一般開放 2025 にブース出展しました

例年桜が咲く4月第1土曜日に開催される（独立行政法人）水資源機構 千葉用水総合管理所主催の「大和田機場 春の一般開放」ですが、今年は4月5日（土）10時～15時30分まで開催され、丁度桜の満開と重なり来場者（1,000人）も多く賑やかでした。

機場では、普段は入れない大和田機場内の大型ポンプ、緊急応援現場などで働く車の展示、恒例の「大和田機場試運転の排水」など多くの方に機場を知っていただく機会を提供されています。連携のブース出展では、「関東農政局印旛沼二期農業水利事業所」、「多面的機能支払実践活動事務支援」、「鹿島川土地改良区」「印旛沼漁業協同組合」、「IVUSA(NPO 法人国際ボランティア学生協会)」や同時開催の「千葉の水回廊ウォーク & 疏水百選印旛沼ウォーク」ちば歩こう会（主催）のゴールがあり、大和田機場や印旛沼に関心を持って頂く場となっています。

当会は、来場された方に印旛沼を身近に感じてもらいたいと、「印旛沼わいわいサロン」と題して気

軽に立ち寄れるブースを設けました。印旛沼水循環健全化会議より「印旛沼の昔の写真」をお借りして展示しました。昭和の時代を思わせる子ども達の写真は特に関心が高かったです。懐かしく思い出される方や、祭りの神輿の写真では、現在でも行われているのかな？など地域と印旛沼の歴史を感じてもらえたようです。

水草再生の「モグリウム」の説明を見て、学校で取り組みたら良いな・・・などお聞きしました。神崎町や富里市など遠方の方、機場近くの方など多くの方と印旛沼や地域の環境などについて気軽におしゃべりしたサロンでした。

（文責：桑波田 和子）



「気候変動×防災×ジェンダー 複合的な学びの可能性」

流山防災まちづくりプロジェクト 矢口 輝美

私たちは、関東地方 ESD 活動支援センター主催の「学び合いプロジェクト for 2030」に参加し、2022年から2024年にかけて、さまざまな団体と連携しながらプログラムを構想・実践してきました。そして、千葉県流山市を拠点に、気候変動・地形・防災・ジェンダーといった多様なテーマを統合的に学ぶ出前授業を地域の小中学校で展開し、持続可能な開発のための教育（ESD）として取り組んできました。

プログラムでは、気候変動と地域の地形、土地の歴史や災害リスク、避難生活の課題を専門家とともに学びました。地形と災害の関係を読み解くためにハザードマップも活用し、グループワークを通して多様な視点にふれながら理解を深めました。生徒たちからは「家族を支えたい」「行動にうつそうと決めた」「自助・共助・公助を意識したい」「人生を生きる上で大切だと思った」など、“じぶんごと”として受け止めた感想が寄せられました。

このたび、日中韓環境教育ネットワーク（TEEN）の日中韓比較調査において「防災のための環境教育」の日本の事例として本プログラムを取り上げていただいたことを、大変うれしく思います。それぞれの学びは単体でも重要ですが、掛け合わせることで子どもたちの気づきがより深まることを実感しています。これからも他団体と協働しながら、地域に学びを広げ、持続可能な未来づくりを共に進めていきます。



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 77 —
おききました！ この人・この団体



～ 印旛沼とともに ～

独立行政法人水資源機構千葉用水総合管理所

こんにちは。印旛沼の水管理、施設管理を千葉県と共に行っている独立行政法人水資源機構千葉用水総合管理所です。私たちの組織を紹介させていただきます。

独立行政法人水資源機構はダム、水路、堰など建設から管理、改築までを一貫で行っている組織です。例えば群馬県の矢木沢ダムや奈良俣ダム、かつてNHK「プロジェクトX」で取り上げられた愛知用水も水資源機構が管理しています。

私たちは「千葉用水」と名乗っていますが、千葉用水という名前の施設はありません。水資源機構が千葉県内で建設した施設、「印旛沼開発施設」、「成田用水施設」、「北総東部用水施設」、「東総用水施設」、「房総導水路」を合わせて「千葉用水」と呼んでいます。

千葉用水総合管理所が行っている印旛沼の水管理ですが、平常時には、酒直水門という施設を操作して沼水位を一定に保っています。これにより、農業用水、水道用水、工業用水として印旛沼の水を安定して取水することが可能となっています。昭和44年に水資源機構が印旛沼の管理を開始して以来、令和6年末までに供給された水量は150億 m^3 のほり、地域の発展を支えてきました。

一方、洪水時には、印旛沼周辺に降った雨が印旛沼に貯まり、沼水位が上がります。その場合は、酒直水門の操作だけでなく、栄町にある印旛機場という施設を運転し利根川へ、また、八千代市にある大和田機場という施設を運転し、東京湾（花見川経由）へ排水しています。これらの対応により、半世紀以上この地域を洪水被害から守ってきました。

しかし、近年では、雨の降り方が変わってきており、洪水に対する備えが重要となっています。印旛沼では「予備排水」という取組みを行っています。これは大雨の予測があった際に沼の水位を下げしておく措置です。もし印旛沼の水位がいつもより低くなっていたら、これから降る大雨に備えてください。これまでに予備排水は十分に効果を発揮し、地域の方々にも注目されていると感じています。当管理所のHP([印旛沼水位情報](#))では、リアルタイムで印旛沼観測点の水位をご覧になれます。



平常時の機器点検作業

なお、大和田機場、印旛機場では毎月1回試運転を行っています。施設見学も可能ですので、興味のある方は当管理所のHP([見学申し込み](#))をご覧ください。

それでは、水資源機構千葉用水総合管理所は、これからも地域とともに、印旛沼の管理に全力で取り組んで参ります。どうぞよろしくお祈いします。



豪雨時水位管理の訓練状況



洪水時排水の様子



職員全員集合

運営会議報告

4 月度運営会議

4月10日(木) 20:00~22:20

会場：オンライン (Zoom)

【報告】

- ・R6 年度若者が主役の環境活動応援事業
3/21 実施報告書提出 3/31 県との打ち合わせ
- ・R7 年度若者が主役の環境活動応援事業
3/24 受託決定 4/9 県との打ち合わせ
- ・第4 回理事会開催 3/17 ・だより 162 号発行
- ・SDGs・ESD 交流会 3/22
- ・いちはら環境フェスタ 4/10 実行委員会
- ・大和田排水機場桜まつり出展 4/5
- ・千葉興銀との打ち合わせ 4/8 他

【協議】

- ・だより 163 号 進捗 ・第1 回理事会開催
- ・総会準備 5/25 総会
- ・印旛沼環境基金 令和7年度は応募しない
- ・ちば環境再生基金事業 (ユース活動の場発見！)
- ・古紙再生促進センター講座 6/3 サポート
- ・千葉市公民館講座 ・ふなばしエココレッジ 11/27

5 月度運営会議

5月8日(木) 20:00~21:45

会場：オンライン (Zoom)

【報告】

- ・R7 年度若者が主役の環境活動応援事業
4/28 県との打ち合わせ
- ・第1 回理事会開催 4/24
- ・総会開催案内メール配信
- ・ちば環境再生基金事業6 年度実績報告書提出 4/17
- ・2024 年度監査 4/29

【協議】

- ・だより 163 号 進捗
- ・総会準備 5/25 総会 役割分担、交流会
- ・ちば環境再生基金事業 7 年度活動内容検討
- ・いちはら環境フェスタ 6/2~6/7
屋外出展 「マイクロプラスチックを探せ」
- ・エコメッセ出展 オンライン出展はしない
- ・その他
古紙再生促進センター講座 6/3 サポート
谷口たかひさ講演会 5/24 協力

お知らせ

第28回ふなばし環境フェア

「サステイナブルな船橋へ！～行動しよう！
身近なところから～」

環境団体の活動内容の紹介、地球温暖化や海洋プラスチックごみ問題に関する展示、工作・体験コーナーなど環境について学べる企画が盛りだくさんです。

日時：令和7年6月14日(土曜日) 10時~15時

雨天決行 入場無料 自由入場・退場

会場：ふなばし三番瀬海浜公園・環境学習館
(船橋市潮見町40番)

詳細：第28回ふなばし環境フェアの開催について | 船橋市公式ホームページ

「まるごみ印旛沼 2025 夏」

印旛沼周辺でのごみ拾いは、海を守ることに繋がります。

今年も皆で楽しくきれいに、印旛沼を地域の自慢にしていきましょう。

日時：令和7年6月29日(日)

午前9時~ ※少雨決行

参加方法：

①現地参加・・・水辺散歩活動拠点(佐倉市錦木町高崎川沿岸)に集合。

高崎川沿岸などをまるごとメンバーとごみ拾い。

②各自参加・・・印旛沼周辺などを各々でごみ拾い。その写真をご自身のSNSに「#まるごみ印旛沼」をつけて投稿→まるごと

いんばぬま SNS で紹介



申込み→

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、

「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉市花見川区横戸台 21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel : 090-8116-4633 E-mail : info@kanpachiba.com

ホームページ：https://kanpachiba.com/

※会費や会員申し込みなどの情報は上記 HPでご確認ください。